

平成27年度 香川県特色ある体力づくり推進学校(園)表彰調査票

記載責任者 職・氏名 (教諭) (堀江 美和)

学校(園)名	高松市立三溪幼稚園	学校(園)長名	
		一宮 邦人	
学校所在地	高松市三谷町2316-2 電話 (087) 889 - 2514	園児数(5月)	学級数
		80 人	3 組

1 体力づくりを推進する上での学校(園)の課題

- ・園児数の割には園庭が狭い。それに比例して、固定遊具の種類も少ない。また、園庭の土が粘土性のため、雨上がりはしばらく園庭で運動遊びがしづらい環境にある。
- ・全園児とも、朝から保育室にこもって遊ぶことを好み、思いに添って遊ぶ時間も室内遊びが多い。クラス活動も室内活動が多く、一日を通して戸外で遊ぶ時間が少ない。職員においても運動遊びをあまり知らないなど、研修と意識改革が必要である。
- ・園児において、集団活動をしていると「疲れた」という言葉をすぐに出してしまうことがある。
- ・生活習慣において、体幹が弱いのか、姿勢が崩れやすい園児が多い。また、食事量が少ない園児も多い。
- ・家庭環境において、入園までブランコなどの固定遊具の経験が無かったり、歩く力・走る力が弱い園児の姿も見られる。

2 平成27年度の体力づくりの重点目標と全体計画

(1) 重点目標

【教育目標】心豊かでたくましく生きる幼児の育成

～こころいっぱい からだいっぱい 遊び込む子ども～

【重点目標】環境や人にかかわり、心と体をしっかり動かしながら、意欲的で行動力の高い子どもを育てる (家庭・地域連携を踏まえた教育・保育内容の創造)

(2) 全体計画

- ・戸外遊び (園庭・園外) を重視した保育内容 (思いに添って遊ぶ時間の工夫)
- ・『しなやかで健康な体づくり』に視点を当てた年間指導計画の作成
- ・体幹を養う活動の推進 (雑巾がけ、固定遊具、体操など)
- ・三谷マラソン (地域行事『三谷マラソン』をモチーフとした園庭のスタンプラリー)
- ・家庭での運動遊びの啓発 (プール参観、運動会、親子体操などを通して)
- ・日山登山・散歩保育 (地域の特色を活かした『歩こう運動』の推進)
- ・体操教室との連携 (毎週月・火)
- ・『早寝・早起き・朝ごはん・外遊び』の推進 (生活習慣、食育の重視)
- ・5歳児における体力・運動能力測定の数値化による評価 (10月頃、2月頃を予定)
- ・運動遊び・戸外遊びの職員研修

3 体力づくりの取組み状況

(1) 重点的に取り組んでいる項目に、3つ以上○をつけてください。

項 目	重点
ア 戸外遊びができる時間や場（園庭環境等）の確保<幼稚園>	○
イ 園外保育の積極的な実施<幼稚園>	○
ウ 教材・教具や場を工夫した体育・保健体育の充実	○
エ 始業前や休み時間、放課後等を利用した体を動かす機会の設定	○
オ 意欲的に取り組める行事の工夫	○
カ 運動部活動等の運営の工夫<中学校>	
キ 体力向上に向けた家庭・地域との連携	○
ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組	○

(2) 重点項目について取組み内容や方法等を書いてください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外遊び（園庭・園外）を重視した保育内容（思いに添って遊ぶ時間の工夫） ⇒木登り、電線リール乗り、リレー、ドッジボールなどが楽しめるように、園庭環境を見直す。 ・ 『しなやかで健康な体づくり』に視点を当てた年間指導計画の作成 ⇒市の『たかまつっ子いきいきプラン』の『つよい心と体』に視点を当てて、3年間の発達に応じた運動遊びを整理し、指導計画を修正しながら実践していく。 ・ 体幹を養う活動の推進（雑巾がけ、固定遊具、体操） ⇒雑巾がけをしたり、鉄棒、登り棒、組体操、リズム体操などを取り入れながら、体幹を養う。 ・ 三谷マラソン（地域行事『三谷マラソン』をモチーフとした園庭のスタンプラリー） ⇒地域の行事とリンクし、三郎池一周（約4キロ）を目指して、園庭を周回するごとにスタンプを押していく。 ・ 家庭での運動遊びの啓発（プール参観、運動会、親子体操などを通して） ⇒実際に子どもの様子を見てもらいながら、家庭での運動遊び（水に潜る、親子体操など）のヒントを提示し、家庭と園とで体力・運動能力の向上を図っていく。 ・ 日山登山・散歩保育（地域の特色を活かした『歩こう運動』の推進） ⇒2月に全園児が発達に応じたルートをたどりながら、標高191.6mの山頂を目指して登山する。 ⇒豊かな自然に触れながら、計画的に園外保育に出かける。 ・ 体操教室との連携（毎週月・火） ⇒年中・年長において、保育後に園の遊戯室で行われる体操教室の内容とリンクし、運動遊びを推進していく。 ・ 『早寝・早起き・朝ごはん・外遊び』の推進（生活習慣、食育の重視） ⇒カレンダーなどを活用して、家庭の生活習慣および食育の向上に努める。 ・ 5歳児における体力・運動能力測定の数値化による評価（10月頃、2月頃を予定） ⇒運動会後から修了までの体力・運動能力を測定し、保育の評価を行う。

4 成果と課題

- ・まずは、職員の意識改革から図っていった。朝から園庭で遊ぶために、職員間で連携し、遊び出しやすい環境をつくっていった。それにより、登園時から園庭で元気にリレーや鬼ごっこ、木登りを楽しむ園児の姿が多く見られるようになってきた。登園時から外で楽しく遊ぶ園児に触発されて、全体的に登園時間が早くなり、朝からにぎやかに戸外で遊ぶようになってきている。また、戸外で遊ぶ時間が増えたため、運動会の練習をしても、疲れを訴える園児がおらず、むしろ頑張ろうと意欲的な姿が見られる。運動遊びの内容の工夫や指導の在り方など、保育者としての資質向上も結果となって顕れた成果だとも受け止められる。
- ・粘土性の園庭の土を職員と保護者で入れ替え、運動遊びに適した土壌にしていった。それにより、雨上がりも園庭で運動遊びがしやすい環境ができるとともに、長靴でなく運動靴で登園する園児も増え、戸外で積極的に遊ぶ園児の姿が増えてきた。また、園庭にトラックのラインテープを貼ったことで、常にトラックができている状態になっており、いつでもリレー遊びなどが楽しめる環境になった。
- ・雑巾がけを音楽に合わせてする中で、持久力・忍耐力も養われている。椅子に座ったときの姿勢が少しずつ改善されてきていることから、体幹の育ちにつながっていると考えられる。
- ・伝統となっている三谷マラソンや日山登山、縄跳び（いずれも3学期に行う予定）などにおいては、今年度の集大成と位置づけ、例年との体力・運動能力の進捗状況の評価をしていきたい。
- ・『早寝・早起き・朝ごはん・外遊び』はカレンダーを活用することで、保護者の意識の変容にもつながっていった。
- ・体操教室の講師と懇談をする機会をつくり、今年度の園児の体力・運動能力の課題を共通理解した。走力、体幹力などの課題やスキップ、ケンケンなどの経験力の課題に対しかかわっていった結果、ほとんどの子どもたちがスキップやケンケンができようになり、運動能力が向上しているのが分かった。
- ・家庭での運動遊びの変容は、園児の言動から向上が窺われる（スキップの練習をしたなど）が、より客観的に変容を評価できるように、今後アンケートなどを実施していく予定である。
- ・5歳児における体力・運動能力測定は、年度当初にしておけば、年間を通しての育ちにつながるのので、次年度はそのような取り組みをしていきたい。

※ 新体力テスト等数値で表された資料等はありません。（3学期には提出できます）